

壯衣 劍 奇 貴

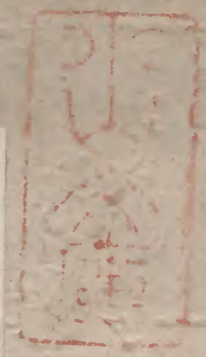
前録 根附師各譜并圖
緒卜玉石類

全

和書門			
二七四	三八九	一三三	七册
三	函	架	類

內閣文庫			
一五四	七八一	三	和書
函	册	架	類

內閣文庫		
番號	和	27431
冊數	7 (7)	
函號	154	87



装劔奇賞卷之七 附録

浪華

稻葉

通龍
新右衛門著

根附工并圖

印龍巾着等とて佩垂の陸に用ふ根附と云
 名物帖に懸錘の字状あり近世を刻して
 名をゆい少かきと今其の巧拙をわきま
 稱を録し其象状圖して鑒賞便也

法眼周山 大坂島内住 詳ニ下ニシルセリ

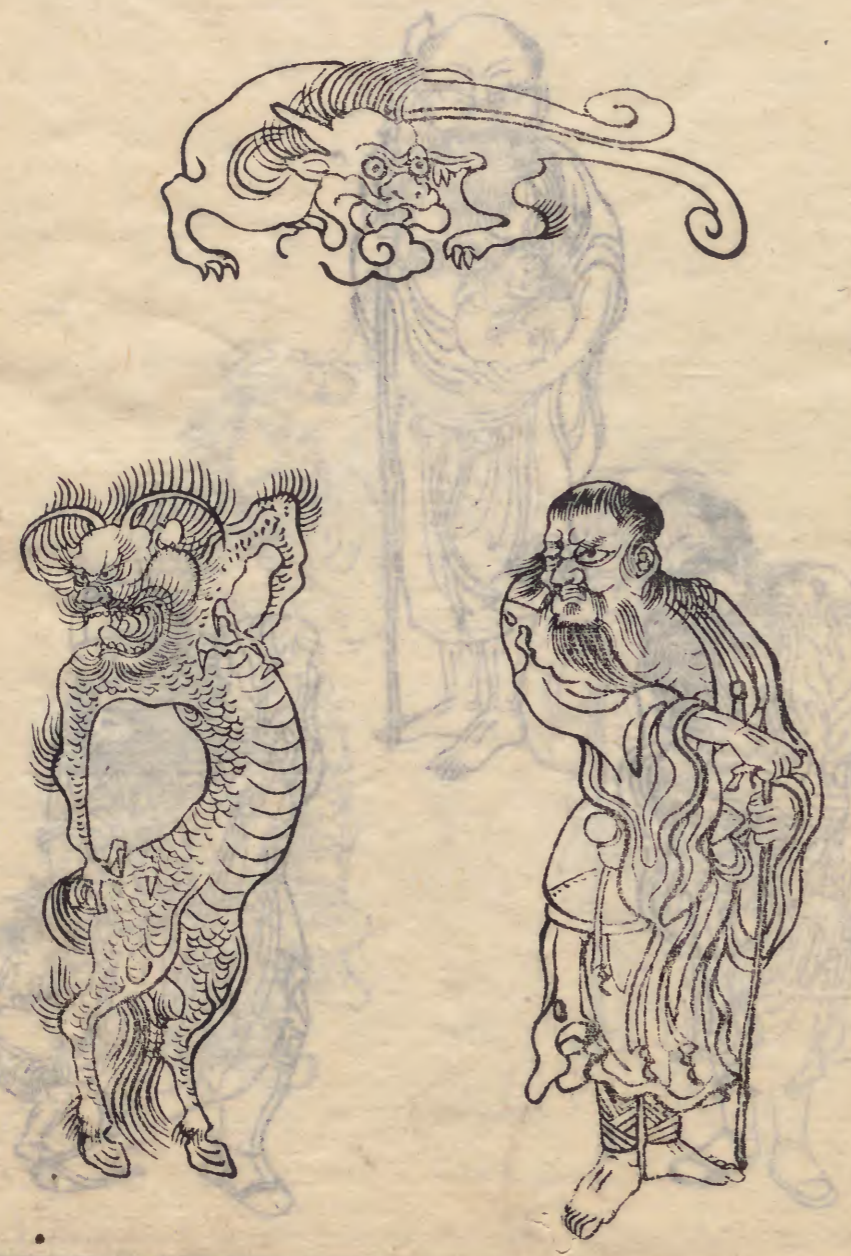
そぞ彩色根附くまは贗物多しとて能画の
 所為なる企及べしと今嗣法眼を乞て右の圖

表列奇賞

卷之七 根附

新右衛門著

表列新賞
卷之七
三十一
芝野節胤



表列新賞
卷之七
三十一
芝野節胤



芝野節胤



藤江四郎六衛尉



藤江四郎兵衛

先考法眼周山先生、講充典號探倭叟、画名之盛、世之所固知、而先生初稱周次郎、好刻佩墜、其所模象、多就山海經及列仙傳圖中、取其物狀尤瑰奇者、而或補或省、或窄或匾、弄鐵縱橫、唯其思之所擬、着色詭異、必出乎人意表、然中歲已沒、止不復造、而盡以其罕、故欣賞彌衆、屬者友人稻通龍、著裝劍奇賞、附錄有佩墜譜、出象諸工所刻若干品、而就余請寫先人遺製、誼不可辭、但前所謂奇物怪象者、今已為人所珍、嚴不可復多聞、則曷有以能當夫世所欣賞乎、然余意乃以為、先生此技本亦丹青之餘適、則今雖非為奇特者、且隨所有、以其形似、亦何傷於先生、遂寫所有一二、以貽焉云、

欽賜法眼周圭吉村充貞識

高

貞

伎川奇賞

卷之七

四

芝齋館

龍神全圖



山本傳兵衛刻

右 法眼周圭男

吉村周南充國寫



雲樹洞院幣丸

姓氏未詳 大坂蟹島住

此人學よりの神道者にして人の需あきハるき哉
雕刻を其の上なる。但刻せる亦多くはるる
故知人亦多し。今其二枚拵び左の圖
し。わが線廣む。まづて素刻にして彩色の抽
なり。あきつるも日つる衣など。襪袋さるるほどの
事。まて。彩色なり。

小笠原一齋 紀州人

長川行... 紀州人

近來無双フツウの名人ナノリとして、現在の人なれども得易エヨクかゞとどめて象牙ゾウガク鯨牙クジラノキバ等残用ノコリく雕刻カキする事、至いたて細密サイミツして人工ニギの及および、テギハ彫うたる下した、スホリ又、ウツ図ずを寫うつと、象牙ゾウガクれ色いろを付つぐる素刻スホリなり

飛龍



名関



山本傳兵衛刻

困象



元興寺假面



人魚



天虞山神



右雲樹洞刻図

橘保年寫

刻

啐啄



拍毬



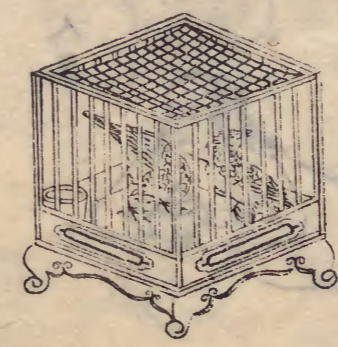
俳優



猿樂



樊禽



右一齋翁刻図

攝保年寫

山本傳兵衛刻

三輪

姓歟名歟スヘテ詳ナラス下倣之江戶関口水道町

上の子供の獅子遊アソビ蛸獵師タコレフシがカ稱ナらル也

あゝとて椽木の素刻スホリして紐通ヒモトホシの穴アナに崩クズレ

黄乃深角ワウソウツツ城入シロイリれ象牙ゾウゾウれ抱カハナリ

和流

江戸人

三輪の牙子ウサゴや三輪の形カタチ倣ナへ

彫ホリ多タ

菱荷屋清七

大坂備後町西本願寺横住

え欄間カドマにカテテ根付ネツキをカキツクるニ其ソノ巧タカクニ

細密サイミツなるニ城シロのカタチをカキツクるニ素刻スホリなり色付象

表判 齋翁 卷之七

牙等なり

九郎兵衛

大阪長町住

彩色根付師なり周山刻成偽造を志うれども

甚どおとせり

根来宗休

大阪京町掘住

味入齒工乃名人よりて根付も又上りなり

龍木勘蔵

大阪天満住

け人の根付たましくとせり

又右衛門

紀州住

上りなり故に今も高家よりてよき根付成り

きを紀州の又右衛門つてもあらふりとすはとの

上りなり

雲浦可順

文字未詳今或人ノ云ヘル所ニヨリ
大阪道頓堀樋ノ上ニ住ス 修驗者ナリ

彩色精一かつす唐人をのあやしくなれ

を彫刻を素刻象牙等なり

岷江 勢州津人

木刻又色々と興をそく巧を弄をたぐ

達摩成彫るよ子眼のぞれくとひららうの

了かど甚ど拙さうす故にそよもてや

現在の人たれも己に偽拙あつてそめ

春周 ハルチカ 姓氏居住等未詳
友忠 トモタケ 京師人

和泉屋七右衛門と稱む。牛埜彫事妙と詣せり。
園東より物又賞致る。故偽造の多き事。百埜
りゆかそよべし。生地の格好の事なり。

勘十郎 大坂久寶寺町谷町

顔手足埜象牙にて作。衣帶は黒檀埜用て人
物埜彫一人なり。

田原屋傳兵衛 大坂住

勘十郎弟子なり。象牙木彫として作る

我樂 大坂人

利助と稱む。田原屋傳兵衛弟子。器用なる彫
為隆 尾州名護屋本町八丁目住

甚多右衛門と稱む。一人一流埜彫出せり。人物
などの衣紋は唐草埜堆く彫上り。所尤奇
妙なり。故よそ名をこゆ。

河井頼武 京都人

佛師なり。其根附玉物奇麗と摸らる所の
ゆゑ。必一曲ありて興を添ふ。一家とらるべし。お

表刻 齋 卷之七

りあふび人の作年致追て賞をかへ

草花平四郎 博勞町心齋橋筋

楠間師なるびく草花哉能彫哉以く姓と

そ間根附も彫せり志うれども多かりと

法眼舟月 樋口氏 大坂島内住今住江戸

画工なり画哉以く法眼位に叙るび人細工

甚ど巧なるにようて根附を彫りらるん

際ととれり

奉真 京師人

象牙にて蛤の内は宮殿など彫彫せり

佐武宗七 大坂内本町御後筋住

楠間師なるも根附よしそ名こそゆふ果

して上もなれば彩色象牙木彫何より彫

刻せり

柳左 江戸人 御挽物師

挽物クワラ根附の上も時繪印籠と隆

時絵とあつてもすつて甚う

廣葉軒吉長 京師人

十蔵 紀州和歌山湊戎側

一齋の風と似たり器用なりりて

表刻 齋 卷之七

上達せし侍へ

柴田市郎兵衛 大坂堀江住

正直 京師人 象牙木彫スベテ上手最賞スベシ

岡友 同上

印齋 大坂北久太郎町難波橋

ふ〜和傳と稱と稱と象牙狼公根附師と

是樂 江戸三十軒掘住

三小 大坂住

小多房といふ彫刻甚ど巧し〜摸るゝ不た〜
〜てよすれども恨くハ品さう〜

吉兵衛 住居未詳

过 同上 上手木彫バカリニテ象牙ハナシ

畑友房 作州津山二階町住

塗師 勘兵衛と稱とぬらゝの根附作人

次郎兵衛 大坂住

角彫龍の隆鞠れ作人

龜谷肥後 同上 稱平助

本ハ機関工なり今入齒師とて根附と刻多

和性院 文字未詳只云傳フルニカセテコ、ニ字ヲ製ス

雲浦風乃彩色彫く

清兵衛

京師人

その清兵衛彫と稱し名高く、は人の作なり
木刻の志何れも、其の意なきは、清兵衛
彫彫とり、六上もなきは、今偽物多し

牙虫

居住未詳

此銘アルモノアリ

近江屋嘉兵衛

大坂島内住

玉治

京師人

大黒屋藤右衛門

同五條サヤ町住

友胤

京師人

此銘アルモノアリ

霞鷲

居住未詳

文字音ニテカレユウトヨムニヤ此銘アリ

長尾太市郎

紀州若山新堀御城代屋敷
小笠原一齋弟子

細密

奇麗なる事、師家譲らぬ逸品なり

竹内彌須平

同上 彩色根附師

宜元

居住未詳 此銘アルモノアリ

光春

京師人 同上

出目右満

江戸人 御面師

ながさき彫と云ふ、面の根附ハ自然なり
よて、他よ及ぶりのなり。又出目上満といふ、
右満の子よや、是又上りなり。凡出目の銘あり、
面の根附は、その外の形ある事なり

表刺荷賞

巻之二

三

四

大坂住

スヒカラアケ関東まで火を銀又銅の針金ハリガネにて一樂イチラク

のくみりの、くみり、くみり根附仕作人なり。

瓢箪ヒョウタンもくみり

泉州堺人 鑄物師

唐物カラモノ久兵衛

クワラ、スヒカラアケ此、唐金鑄物イモノの根附あり

一樂イチラク 同上 土屋氏號望藤軒

籐トウ又細き籐フチくみりの腰下仕作り出せり人

なり。又瓢箪ヒョウタンなり。の根付もくみりにて作り

中山大和女 江戸主

象牙のクワラ乃根附は獅子龍なり。或は玉板細
密ミツ針尖ハリノサキにて毛彫ケガリするものなり

附 人魚骨ニニキヨコソウ

奸商人魚の骨ホネなり。とて人を欺アザる利をむくは

ふりのあり。甚オシで非ヒなり。是ハ鬼鱸オニフカ此アキ鰐ウなり。は

くみり識者シキヤと云イハせり。往ムクくもくみり根附は

用ヨウれ人あはせ。くみりくみりごとく日暮り

根付時計トケイ 又香合時計カウゴトケイトモ云フ

紅夷人貢コウイコウとらり。くみりくみりてヲランダタイとい

へど。其屬國レヨクコクスセリヤと云イハせり。島シマを仕シふとい國

土屋氏 豊島屋伊兵衛

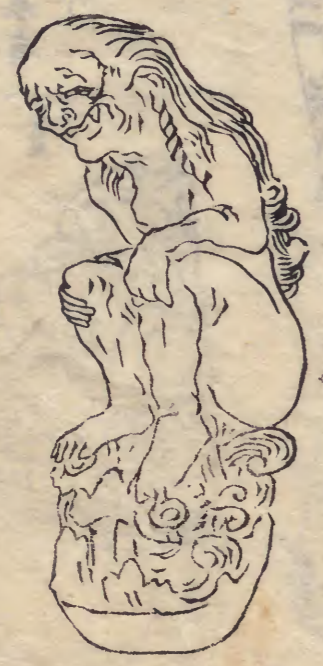
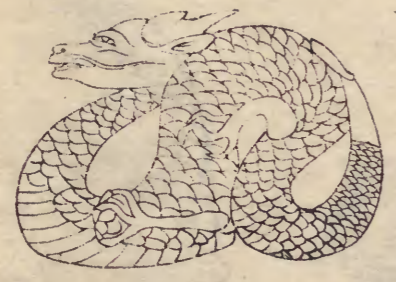
此人天文より〜 種フランスと〜 なる〜 工合必〜 奇工

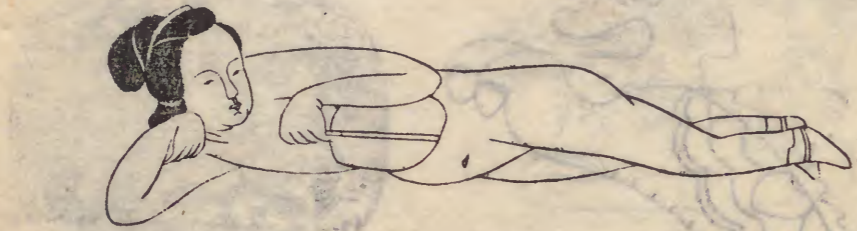
唐彫根附

唐心の人此方の根付の〜 印鈕 古来印鈕の〜 堪〜 じ〜

藤江喜平次刻

此詳なる〜 彫成るの〜 若干種を得て〜 せ〜 十が一





裏有印



裏有印



藤江喜平次刻



裏有印



裏有印



裏有印背





印裏有

藤江喜平次

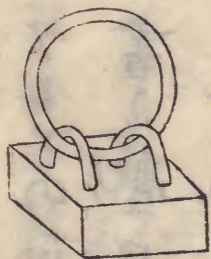


印裏有

印有裏

圖印鈕

鈕環



壽亭侯印
及關南司
馬皆用此
鈕



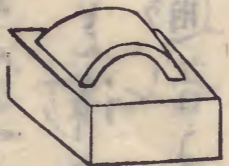
鈕龜



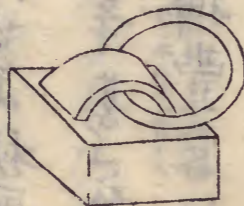
鈕駝



鈕真



鈕環



右

橘國雄寫



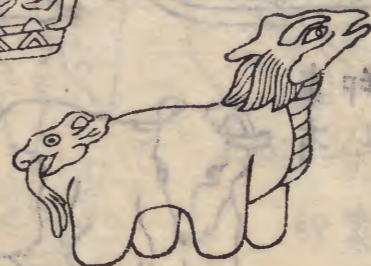
面



印有裏



背



欽定四庫全書
欽定四庫全書
欽定四庫全書

欽定四庫全書
欽定四庫全書
欽定四庫全書

緒ト玉類

フレメの正字詳ならず坊間の學語篇と
 書^{アラ}壓^{ニウ}口捺^{タツ}子^レ此^カ字^ナは^カ假^ナ字^ナ也^ナ副^{ツケ}あ^レれ^トも^イ
 こ^ノご^ノや^チさ^ズび^ノ學^ノ語^ノ篇^ニ此^カ假^ナ字^ナ副^{ツケ}あ^レれ^トも^イ
 あ^テて^テな^らず^レわ^よ。或^ハ人^ハい^ハう^{。彼}ち^ハ秋^ノ風^ノ客^ニ
 此^レ字^ヲを^ビン^{ボウ}タイ^{ジン}と^譯せ^り。そ^ノ基^ニて^第一^ノ
 べ^ー秋^ノ風^ハ抽^ノ豊^ト通^ノ音^トし^抽豊^ノ客^ハ俗^ノ
 よ^リス^アヒ^ヲを^とり^高く^此事^ニを^てわ^から^な
 ぬ^ハ推^ノ考^ニて^假字^ニ付^テら^るり^のま^じら^れを[。]
 信用^ニを^らり^のハ^大に^迷惑^ニを^らる^事な^らう[。]

我邦^ニて^製一^ノの^ハ文字^トも^通用^ニと^るや
 う^ノ取^合て^ちべ^ー是^我邦^ノの^取合^ニな^らう[。]
 固^{モト}寡^{ヨリ}聞^クの^りの^なれ^ばは^後に^よ
 正^シて^とて^正字^ニ改^テ考^ヘ用^ヒび^どを^しめ^とハ
 緒^ヲを^とめ^りの^用が^體と^なり^て名^ニ用^ヒる[。]
 なる[。]あ^らび^の用^があ^らび^と體^ニな^らう[。]名^ヲ
 用^ヒら^るる[。]假^ノ字^ニと^ちく[。]メ^ハト[。]
 此^レ字^ナら^う。ト^レ居^ラな^らぬ^訓を^假ら^るる[。]假^ノ字^ニ
 此^レ玉^ノ石^ノ敦[。]江^ノ州[。]木^ノ内[。]小^ノ敏[。]繁[。]の^作の^雲根[。]志[。]
 出^らる[。]は^らび^の正^ノ字^ニを^後に^なれ^ば彼^ノ書^ニは^讓り

牙魚言... 卷之... 七... 三... 館

海... 色... あり

曲玉 マタ 神代の物なり... 雲根志よ

天... 靖務天皇の御陵

和州... のほ... 得... 上古冠服

此飾 カザリ 今徳トヨ司ふべき小なるハ少

青瑪瑙 アヲメノウ 星珊瑚珠の... 光彩なり 星珊瑚珠 セイサニゴジュ

但古来青珊瑚珠と稱せ... 星野屋宗兵衛と云ふ人改

星珊瑚珠と稱せ... 宗兵衛年久し... 宗兵衛年久し

本... 寺... 雲州玉造石の類れと云

金物緒ト類 カナモノ 金銀鳥金 イロエ 四... 一等... 高彫の色

毛彫象眼 マウボウゾウガン 或イモツギ等あり... 間宗珉宗與の銘

石英 セキエイ 雲根志よ... 黄白黒紫の四色あり... 瑤

磨... 結トヨ用ふべし... 黄色のみの江

出

白珊瑚珠 ハクサンジュ 舶来のもの... 其おもむき珊瑚

白... 海底よ... 正名示

崑崙石 コンロンセキ 其色の... 施

琉球珊瑚珠 リウキウサンジュ 又根三五珠氏... 鉛丹の色

菓の... 珊瑚の... 木理

上... 巻之... 七... 三... 館

新編 巻之七 七五 三

筋王 正名 蠻名等未詳 紅夷人の吹りのなる古液

極品のりのハ光澤なく土質つらねるがごとし

偽物ハ硝子のぬくまうとまきとぬまう 奸商或ハ

砥にてき光沢をう消し購をれど孔口よき光

沢残アて真物の光なきものハ大ニ異なる近

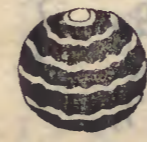
年 鷹身造 多くんく古物の極品ハ稀し 下ニ

ガキギ玉 又ふやうよ同

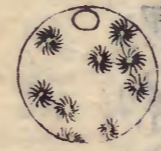
スゲモ



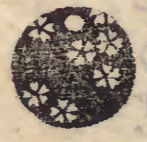
ガキギ玉



トホ玉



同



トニボ玉 是も吹物也 但地ハ虫の巢のごとく茶色

色ハ沙英をえき白黄等あり 紋ハ獅子の文

みらるるごとのとさ花又し

印花玉 吹りのご筋玉のごとく彩色にてさる所の

模様あり 是も舶来の物也 下並にかな

絲屑玉 吹りのご色ハ萌黄う藍れ玉よ 白絲状十

線許すしひららぐとす 但そ糸の上ガ隠起

柘榴石 雲根志又出る 但緒ト又用れハ吹物なり

大野金躰石 榴実のごとく地ハ一面ニ氷文あり 古液ハ

石のごとく新液ハ吹物とすゆり

孔雀石 雲根志又出る 下並に略

長洲新書 巻之七 七五 三

本草綱目 卷之七 石部 綠青石 又雲根志曰委一

紫水晶 色うほろりき紫よりて吹物よりあつた

大理石 石質堅一雲南より出り少く黒く班

赤く飛入あつては方製する。墨流の六ことな

ぶぐと一。硯屏などよ作つて多く後きり

蛇石 蠻名スフニカステニといふ。黒く碁子のごとくお

なり。いりの瘡腫の膿汁を吸の功ありと。実

あつたべし。是れ水中に投ざればやうて沫を吹

事なきなり。最奇といふべし。蛇の頭ある

凝水石 越の白山又立山の流ほとをいふ。こ

がやうて凝て石となる。極寒の地なれば土器

色よりて光なり。これを試す。水中に投ざれば

水と混じてる。とぞ。そえ水なればや

薬用の中より。堅質の物哉。押し製を

雀石 正名未詳。雀の羽のごとく色よりて。白黒

の点あり。舶来のものよりて。至て稀なり

厚貝 貝を磨く。うりのよりて。光真珠のごとく。紅毛

より。こころと

南京漆附玉 やまのうて。山水唐草やうの漆附

あり。伊万里陶のよのひきやう

本草綱目 卷之七 石部 南京漆附玉 あり。伊万里陶のよのひきやう

己下二品イバゲ産所サシ並レヨナラヒよカ教寺セツ後ナリ

鬼餡餅オニノアニモチ外ツ白ク内スミ氣ミイロ色シ白シ丸ゼン固コトカなり

信州の産

ツヨシ石シ内レロ白メナウ瑪瑙ノ外ツ皮カバあり内ウチ皮ヒカ

外ツ澤ツヤなり肥前ノの産

香玉ニホヒタマ藥種ヤクシユを細末サイマツして煉合レせ玉トとなり花

なホリ線彫ホリりるホリものホリをホリ茶氣チヤキをホリこホリゆホリりホリ

よホリけホリひホリ玉ホリといホリふホリ文ホリどホリしホリもホリ沈麈射チンジュのホリ薰ホリ

よホリあホリすホリ舶来ホリのホリりホリ

菩提樹ホトケツツ天竺テンシク抱クき菩提樹ノ事シ法書レヨよレ出ル

唐タウツブツブハ木モク患ケン子シ此コノ事コト即スガチ菩提樹ノ子シ

和産ワノのリめも少ス異風イフウなり結トりり

人ヒトあり唐タウツブツブとツブりりのハ別物ベツブツとツブりり

色イロよク小児セウニのス雀スズクれ玉子シとツブりりのツブ

和ワのツブよりハ大オホなり是何ナニのツ樹キの実なりツ

いハヤゴでツ洋ソビラカなりツ

桃核モノサシ狛子シ又マタ猿サルなり刻て結トり根ネ付ツ師シの

作シなりハ外ソト形カタ多クなりシ

ひツくツらツなツりツ

装劔奇賞卷之七終

伯兄通龍所撰裝劍奇賞成余受而卒
業以其事詳悉其文雅馴乃喟然歎曰
人之在世也以著名為榮而著名固非
容易之事以文著於治世以武聞於亂
世者固無論若不能則曲藝之特其亦
可冀也余家本系自河野氏蓋鎌倉氏
之時河野通信以武著爾後家門日衰
今已為庶伯兄自少放情肆志不治生

業及壯為賈以賣刀劍飾具及襍貨為
業為之東往西去終歲不寧未幾頗致
家產乃分貲於妹通尹季通氏及余通
邦等各就其業初伯兄業此專亦用心
於鑒識蓋質諸先達復以自試日夜勤
攻以冀其精是以凡其所貨雖微小物
必辨真贗賈販不苟且謂世之以鑒識
所稱者有其識雖頗精或祕而不傳或

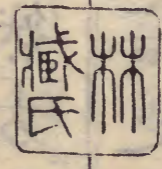
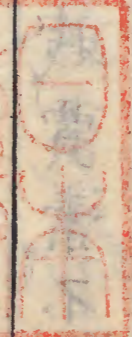
不精而為精以自高者故世賈人雖間
有志於鑒識者以其不傳不能得講究
真贗溷然唯利之求以誤人者往之不
少伯兄有慨于此欲著書以傳已十年
所其間業餘所錄回世故未成篇深以
為憾客歲奮志就緒謝販粥及家事刪
心補綴繕寫完功即促梓氏乃未一歲
茲告刻成顧余宗五百年前有通信後
世胄衰降今已為庶蔑然寒微存猶同
匹然幸曰伯兄之有此舉稍得揭姓稱
者豈可不以謂儕以文著於治世之類
乎雖是曲藝之一端庶幾足以益人乎
余也賤賈素不閑文事雖然方是刻成
心竊有喜心之不可自抑言之不可以
已乃託諸某氏文以述其所喜敢題篇
末云

表列奇賞 卷之七 芝翠館藏

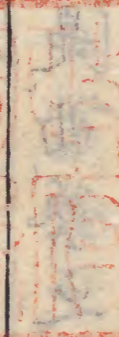
天明改元辛丑秋九月初吉

通邦林蔵拜識

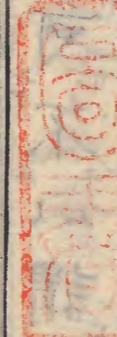
余



平



米



芝翠館蔵板記

...



装劔奇賞餘稿 嗣出

作者 稻葉新右衛門

大坂鹽町筋心齋橋西入

天明元年辛丑九月發行

表列奇賞 卷之七

東都書肆
浪華書肆
平安書肆
日本橋南壹丁目
須原茂兵衛
山本平左衛門
志川清右衛門
上田卯兵衛
柳原喜兵衛
石原茂兵衛
大野木市兵衛

東都書肆

平安書肆

浪華書肆

日本橋南壹丁目

須原茂兵衛

寺町通鮎蓐師前

山本平左衛門

心齋橋筋順慶町

志川清右衛門

北詰町

上田卯兵衛

南久太郎町

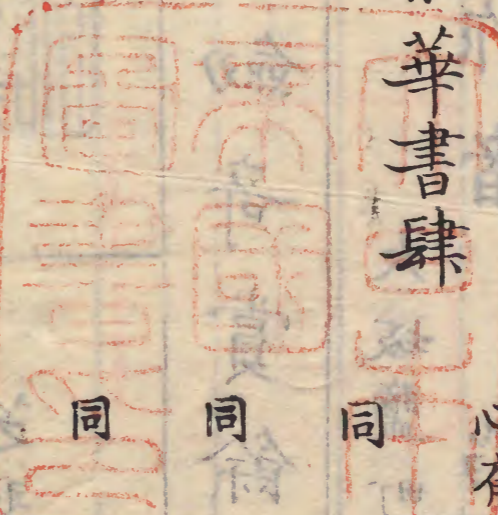
柳原喜兵衛

南貳丁目

石原茂兵衛

安堂寺町

大野木市兵衛



天保七^丙申年冬十月日

